

# グローバル・コミュニケーション研究所

## 2023 年度活動概要

〈2023.4 ~ 2024.3〉

### 刊行物

- 『グローバル・コミュニケーション研究』第 13 号 (2023 年度紀要)

### 研究プロジェクト

- 学際的なアプローチによる SDGs 研究  
代表: 河越 真帆 (本学グローバル・リベラルアーツ学部グローバル・リベラルアーツ学科 准教授)
- バイカルチュラルな外国語教員のコードスイッチングと授業効果  
代表: 叶 尤奇 (本学外国語学部国際コミュニケーション学科 講師)

### GCI キャンパス・レクチャー・シリーズ講演会

- 第 70 回 (2023 年 6 月 6 日) 〈対面開催〉「今、考えよう、SDGs! 児童養護施設出身者が感じる「ゴール 4 質の高い教育をみんなに」」  
田中 れいか (一般社団法人ゆめさぼ 代表理事)  
司会: 林 史樹 (本学外国語学部アジア言語学科 教授)

今日、SDGs への関心はますます高まっている。教育分野においても、ゴール 4 として、「質の高い教育をみんなに」が目標とされている。しかし、国内でも経済的な事情や周囲からのサポートで機会に偏りがでているのが現状で、諸事情で両親と離れて児童養護施設で暮らす生徒は不利な環

境に置かれている。たとえば平成28年度では大学・短期大学への進学率が52.2%であるのに対し、児童養護施設出身者は12.4%と格差があり、大学中退者も27%と、中退者平均の10倍に達する。そこで今回は、児童養護施設の出身で、子どもの進学支援などに取り組む「ゆめさぼ」代表理事の田中れいか氏を迎えて、児童養護施設での生い立ちと同時に、施設の子どもたちにとっての進学状況について話を聞いた。

まず田中氏の紹介から始まり、田中氏自身が養護施設に入った経緯、施設での勉強時間や通塾など日常に関する実体験が語られた。一方、進学希望者は、施設の先生から100万円をアルバイトで貯めるように指導され、普段の勉強以外に、アルバイトにも精をださなければいけなかった話や、両親などからのサポートもなく経済的な事情から進学先にも制限があった話が紹介された。ゆめさぼでは、高校受験に対しても受験費や交通費の支援を行っているが、施設の子どもたちにとって複数の受験機会自体が困難な現実が語られた。また高校卒業と同時に、自分で生活費も学費もすべて賄わなければならないため、進学を諦める者が多いこともゴール4達成への道程が遠いことを感じさせた。

講演後は、主には参加者からの質問やコメント、知念渉先生からの質問への補足などの時間を通して理解を深めた。そのほか、曽我部和馬先生、柏真由美先生にも簡単に発言を求めた。学生からは、進学への思いや施設に対する感情、ゆめさぼの活動や資金源ほか、多岐にわたる質問があった。また講演後に、「質の高い教育が贅沢品になっている」という学生の感想が寄せられたが、それこそゴール4の課題といえる。

講演内容を受け、家族こそが最良の単位で、それ以外は、かわいそうという認識が先行していることが、施設の子どもたちを縛っているようにも感じられた。また大人との関係において、田中氏によれば、施設内では1人の大人が10人を相手にしているが、ピアノなどの習いごとでは1対1で向き合ってもらえるのがうれしかったという。翻って、1対1で向き合う教育機会がいかに大切かを感じさせる話であった。

最後に田中氏は、教職を目指す学生に、施設の子どもたちへのサポートには、各教員の理解が欠かせないというメッセージを残した。(林 史樹)

- 第 71 回 (2023 年 12 月 7 日) 〈対面開催〉「多文化共生に向けた取り組みへの再考～移民アソシエーションの問題意識」

小波津 ホセ (NPO 法人日本ペルー共生協会 理事長)

司会: 磯田 沙織 (本学外国語学部イベロアメリカ言語学科 講師)

AJAPE という移民アソシエーション: 本講演では、移民が設立した組織を移民アソシエーションと紹介した。同組織は同胞移民への支援 (適応や情報) や資本 (社会関係や文化) を提供する。移民が定住すれば、アソシエーションが設立するとは限らず、その継続性にも問題が指摘される。日本では移民アソシエーションへの認識は高くはなく、研究も進んでいない。日本ペルー共生協会 (通称 AJAPE: アハペ) の理事長を務める講演者は同組織の存在とその意義について改めて整理し、移民アソシエーションと定義している。AJAPE は、1999 年に日本でペルー人により設立され、2006 年に東京都より特定非営利活動法人 (特定 NPO 法人) の認可を受けた。24 年が経過した今でもペルー人及びペルーにルーツを持つ移民を中心に支援している。

AJAPE と多文化共生: AJAPE の特徴は、在日ペルー人への支援に特化していることである。同胞に対する AJAPE の活動は同じ言語を介する、国民性を理解するという利点をもつ。また、ペルーに興味を持つ日本人支援者が日本社会との重要な役割も果たしてきた。そのため、AJAPE は同胞が抱える問題への洞察力に優れていたり、日本人支援者が日本社会との仲介役を担ってきた。また、AJAPE は同胞が人的資本を活用する場、文化を継承する場にもなってきた。現在の AJAPE の成果は特定集団への支援がもたらした結果でもある。しかし、多文化共生が浸透する前後の日本社会の動向は異なる。文化的差異への理解を求める多文化共生は多様な国籍への支援が前提となる活動を支援団体へと求める傾向にある。それは AJAPE が専門でない国籍集団への支援の検討を突き付けられているとも言える。

多文化共生の再考: AJAPE はペルー人でない国籍集団への支援は困難である。各移民集団が求める支援はその移民の言語で機械的に通訳しても「理解する」「伝わる」とは必ずしも言えない。なぜなら、各移民集団が成

長した環境や文化的背景が異なり、それをまず理解すべきだと AJAPE の経験からは言える。また、日本の出入国管理及び難民認定法により各移民集団の来日背景や時代は異なる。AJAPE が支援する集団は 2 世や 3 世が中心であり、日本語能力が高い場合が多い。彼らに日本語習得を求める必要はなく、逆に、スペイン語やペルー人としてのアイデンティティ維持を検討する段階である。しかし、多文化共生ではこの点は重要視されておらず日本社会での理解が進まない。そのため、移民アソシエーションと多文化共生は相反の関係にあると感じるが、AJAPE は「多」の一端を担うペルー人の育成に務め、今後も日本社会に貢献したいと考える。(小波津 ホセ)

- 第 72 回 (2024 年 1 月 22 日) 〈ハイフレックス開催〉「国連平和構築の今—元国連事務総長特別代表にきく」 本学国際コミュニケーション学科 共催

長谷川 祐弘 (元国連事務総長特別代表)

司会: 水野 孝昭 (本学外国語学部国際コミュニケーション学科 教授)

ウクライナ、ガザなど戦乱が続くが、国際平和を担う国連はマヒしている。新冷戦と言われる今、国連の平和構築に何ができるのだろうか。紛争解決の現場で活躍し、国連事務総長特別代表として東ティモール和平を成功させた長谷川祐弘氏が、国連平和構築の意義を語った。

冷戦後の 1992 年に国連の平和維持活動 (PKO) を見直したブトロス=ガリ事務総長による報告「平和への課題」は、紛争後の「平和構築」という新たな国連の役割を提唱した。その実践が国連カンボジア暫定行政機構 (UNTAC) で、明石康氏が日本人初の国連事務総長特別代表としてトップを担った。国連が「和平合意の維持」ととどまらず、「選挙による新政権の樹立=平和構築」を目指したのが画期的だった。長谷川氏は国連ボランティア計画 (UNV) 次長として選挙実務を担う 500 人もの国連ボランティアを統括。日本人ボランティアの犠牲を乗り越えて、総選挙を成功させた。

今世紀初の独立国となった東ティモール(02-06年)では、日本人二人目の国連事務総長特別代表として平和維持部隊が撤収した後の危機に直面した。内戦後の総選挙では、選挙で敗れた側が選挙結果を受け容れずに内戦に逆戻りすることが多い。東ティモールでも、実力者のアルカティリ首相が国家の危機を招いた責任を認めて辞任するかが焦点だった。

「ここで辞めたらすべてを失う」という首相に対して、長谷川氏は「日本では総理大臣を辞めても議員として残り、次の選挙で勝てば政権に復帰できる」と説得した。いま譲歩することで将来の希望が生まれると言葉を尽くした結果、納得した彼は退陣を決意し、内戦再燃をくい止めることができた。実際、アルカティリ氏はその後に再び首相に返り咲いた。それは「平和的な政権交代」という民主主義が定着した証(あかし)にもなった。

「現地の指導者と信頼関係を築いて彼らの心構えを変革することが平和構築のカギである」と長谷川氏は述べた。「負けた側の自尊心を傷つけずに撤退できる道に対話と説得でみつける」。この教訓を、戦争を続ける今の指導者たちにも聞かせたい。「平和構築には指導者が一番の役割を果たす。国連はあくまでサポート役だ」という謙虚な姿勢が印象的だった。(シャッジアド 円桃/ 本学外国語学部4年、水野ゼミ所属)

## 高杉忠明先生最終講義

- 高杉忠明先生と語る(2024年1月25日)〈ハイフレックス開催〉「神田外国語大学のアメリカ研究の軌跡とこれから」 本学英米語学科、グローバル・コミュニケーション研究所 共催

高杉 忠明(本学 名誉教授)

パネリスト: 黒崎 真(本学外国語学部英米語学科 教授)

パネリスト: 中村 信之(本学外国語学部英米語学科 講師)

司会: 阪田 恭代(本学グローバル・リベラルアーツ学部グローバル・リベラルアーツ学科 教授)

**外務省外交講座@ KUIS**

- 卒業生による！ 外務省外交講座@ KUIS (2024年1月17日)〈対面開催〉  
「ラテンアメリカから見た世界、世界から見たラテンアメリカ」 本学イ  
ベロアメリカ言語学科 主催、グローバル・コミュニケーション研究所  
共催

古賀 優子 (外務省中南米局中米カリブ課 課長補佐 / 本学スペイン  
語学科 1999年卒)

司会: 松井 健吾 (本学外国語学部イベロアメリカ言語学科 講師)